

企業名： 三和ホールディングス株式会社

レポート名： 「統合報告書 2024」

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

よく理解できた。業績の伸びが非常によく、中期目標を二年前倒しで達成していることから現状の経営体制は非常に健全で将来性があると予測でき、今現在進出している、北米、欧州を中心としたグローバル化もより進められると明記されていた。その好調な経営の中で、この企業が目指している、推進していることは他業種化とグローバル化を推し進めてより経営業績を良くしていくことである。これは、長期経営ビジョンが明確に示されていることから理解できた。グローバル化に関してはグローバルビジョンというコラムでより深く解説されており、企業の本気度がうかがえた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

三和グループの競争優位性については、価値創造ストーリーの中で詳しく記述されており、把握しやすかった。多品種化、グローバル化、サービスの3つが挙げられており、その中でも詳しいことがそれぞれ記述されていてわかりやすかった。3つの部門ごとに、具体的な数値を例に出して、一見してわかりやすいグラフにまとめてあり、視覚的にもわかりやすい資料になっていた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

三和ホールディングスは、「高機能開口部」のグローバルリーダーを目指す明確な長期ビジョンを掲げ、多品種化、グローバル化、サービスを事業の三本柱としている。これらの強みを活かし、世界各地に生産拠点を展開し、開発から販売、施工、メンテナンスまでの一貫体制を構築することで、顧客に高い付加価値を提供しているという。また、サステナビリティ経営を推進し、環境への配慮や社会課題解決にも積極的に取り組むことで、市場の変化に適応し、長期的な企業価値向上を目指しており、その競争優位性は持続性を持つと評価できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

同社は「人」を競争力の源泉であり最も重要な経営資源と位置づけ、従業員の人的資本向上に注力している。人権尊重と多様性に配慮した人事施策を推進し、安全で働きやすい職場環

境の確保に努めている。「PDCA 桜」に象徴される継続的な改善文化や、「個人の創造力を結集してチームワークにより企業価値を高める」という経営理念は、従業員の自律的な思考と行動を促す。社長は「共通目的」「貢献意欲」「コミュニケーション」の三要素を重視し、DX人材の育成やキャリア形成を支援するプログラムの充実を通じて、個人の成長と組織全体の発展を図っており、従業員が自身の人的資本を高める機会は豊富であると考えられる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

業績が向上している企業だということで、非常にわかりやすくいい資料だった。それぞれにわかりやすいテーマ名がされており、グラフなどの資料が特にわかりやすかった。一方で、財務指標と非財務指標の連携や、人的資本における「質」的な側面のさらなる可視化、専門用語のより詳細な説明や、各戦略間の相互作用の明確化が、報告書の分かりやすさと説得力を向上させるための改善点として挙げられる。